



■	説教	待ち望んで生きる	……	中家 契介	……	1
	教会の課題	幼子たちを主イエスのところに	……	渡部 静子	……	2
	新約聖書学への招待	マタイ27章19節の新しい訳 第2回	……	住谷 眞	……	3
■	旧日本基督教会の草創期—植村正久を中心に(9)		……	崔 炳一	……	4
	教会、この地とともに(9)	帯広教会	……	鶴田 洋明	……	5
	こいのにあ	神の言葉に導かれる群れとして	……	山本 健一	……	6
	み言葉に照らされて	笑顔に磨きをかけて	……	酒匂たけ子	……	7
	さんびかに生かされて	群れである喜び	……	金丸 久子	……	7
	西田幸雄先生 追悼文	厳しくも、あたたかい牧者	……	秦 利器	……	8
	コロナ禍の中で(9)	見えないものに目を注ぐ	……	中家 盾	……	8

待ち望んで生きる

わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。（コリントの信徒への手紙—13章12節）

なか いえ けい すけ
中 家 契 介

思いもかけなかった新型コロナウイルスの影響を受け、皆さんの教会は今、どのような状況で礼拝を、また諸集会を守っておられるのでしょうか。以前と変わらずに集うことができている群れもあるでしょうが、そうでないところもたくさんあると思います。特に、聖餐式を行うことができないでいる教会は、きっと数多くあることでしょう。

私たちは、再び以前のように会える時を待ち望んでいます。共に集まったの礼拝、主の体に与る聖餐式、精一杯の声でささげる讃美と祈り、礼拝後の食事の交わりや諸集会……。再開できた時の喜びは、これまでにないほど大きなもの・特別なものになることでしょう。私たちは今、失った〈交わり〉を、〈共に在る〉ことの意味を噛みしめています。

でも厳しい見方をすれば、今後、失ったものが完全に戻ることはないかもしれません。健康に不安がある方にとっては敷居が高くなってしまおうでしょうし、短期間で元通りになることは難しいでしょう。

しかし、これから先どのような歩みをたどるとしても忘れてはならないことがあります。それは、私たちが今、渴望している〈完全な交わり〉はやがて来るものの〈先取り〉にすぎないということです。この地上においては、それはどこまでいっても不完全なものでしかありません。やがて完成に至る神の国の〈部分〉〈前味〉にすぎないのです。

私たちが今、願い求めているものは、単なる〈人との交わり〉ではなく、究極的には〈神様との交わり〉なのだと思えます。人間は心の奥底で、無意識に神様との交わりを求めているのです。「わたしは

知っている／わたしを贖う方は生きておられ／ついには塵の上に立たれるであろう。この皮膚が損なわれようとも／この身をもって／わたしは神を仰ぎ見るであろう。このわたしが仰ぎ見る／ほかならぬこの目で見ると。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る」(ヨブ記19・25～27)。

なぜなら人は神様と交わり、向かい合う存在として造られたからです(創世記1・26)。今回の事態が起こる前から、神様との交わりの時としての礼拝は特別なものでした。どれだけそのことに気づいていたでしょうか。週ごとの礼拝の重みを全身全霊で感じながらささげ、主との完全な出会い・交わりの時を待ち望みたいと思うのです(黙示録22・20～21)。

その上で一つ加えるならば、待ち望んで生きるということは、何もしないでいることとは違います。神の国を来らせるため、その実現のために、取るに足りない私たちが用いられるのです。

〈ソーシャル・ディスタンス〉という言葉が最近よく耳にします。もちろん感染症対策として物理的な距離は取りますが、心の距離は取りたくありません。「キリストの体」なる教会が、どうしたら身体性を取り戻せるのか、ご一緒に知恵を絞っていきましょう。大勢を招くことが難しい現状があります。ということは、今まで以上に細やかに一人一人と関わっていくことが求められているのだと受け止めています。ほかにも礼拝のウェブ配信や、オンラインでの会議も否応なしに進んでいます。皆で手立てを尽くして、福音を伝えてまいりましょう！

(仙台黒松教会牧師)